

| 世界広布と創価学会（2）日顕宗を破す |

1. 悪と戦う

如かず彼の万祈を修せんよりは此の一凶を禁ぜんには

いかなる大善をつくり法華経を千万部読み書きし一念三千の観道を得たる人なりとも
法華経の敵をだにも・せめざれば得道ありがたし

正しい仏法実践のためには、成仏を妨げる悪縁となる「一凶」と戦い抜くことが必然である。

どんなに仏道修行を重ねても「法華経の敵」を責めなければ成仏はない。

現在における「一凶」「法華経の敵」は日顕であり、日顕宗である。

仏法を破壊する魔の働きこそ、民衆を不幸に陥れる根源悪の正体である。

悪を打ち破る戦いが、個人の成仏の境地を開く実践となる。

2. 宗門事件の経過

創価学会は創立以来、僧俗和合を願い宗門外護に努めてきた。350以上の寺院を建立寄進。

昭和 50 年代前半	宗門一部僧侶らによる学会攻撃と檀徒づくりが表面化
昭和 54 年 4 月 24 日	池田先生・第三代会長を勇退
平成 2 年	宗門法主日顕が創価学会分離作戦（C作戦）の陰謀を企てて実行
平成 3 年	宗門が創価学会を一方的に破門
平成 5 年	創価学会は日寛上人書写の御形木御本尊授与を開始
平成 10 年	宗門が正本堂を破壊
平成 17 年 12 月	日顕が退座し日如が法主に。

3. 日顕宗の大罪と邪義

① 広布破壊の謗法

文証：「大願とは法華弘通なり」「広宣流布の大願」広宣流布は日蓮大聖人の御遺命である。

破折：日顕宗は広宣流布をすすめる創価学会を破壊しようと企てた。これは広宣流布破壊であり、一切衆生の救済を目指した日蓮大聖人の心に背く大罪である。

② 法主信仰の邪義

文証：「時の貫首為りと雖も仏法に相違して己義を構えば之を用う可からざる事」

破折：日顕宗は「法主は絶対である」「法主も信仰の対象である」と主張するが、そのようなことは大聖人の御書のどこにも書かれていません。

③ 誤った血脉觀

文証：「日本國の一切衆生に法華經を信ぜしめて仏に成る血脉を継がしめん」

「信心の血脉なくんば法華經を持つとも無益なり」

破折：日顕宗は法主相承を受けるだけで仏の悟りを得ると神秘的血脉觀を主張するが、大聖人は信心の血脉とは正しい信心のことであると言われている。

④ 僧俗差別

文証：「此の世の中の男女僧尼は嫌うべからず法華經を持たせ給う人は一切衆生のしゆとこそ仏は御らん候らめ」

破折：日顕宗は「僧侶が上で在家は下」と主張。大聖人は一切衆生は平等であると明言されている。僧俗を差別することは一切衆生の仮性の否定であり、仏法の本質を見失っている。

⑤ 化儀の悪用

文証：「過去の慈父尊靈は存生に南無妙法蓮華經と唱えしかば即身成仏の人なり」

破折：日顕宗は成仏するためには戒名や塔婆、僧侶による葬儀などが必要と主張。大聖人は成仏は生前の信心・実践によると明言されている。僧侶が不可欠などと邪義を構えること自体が仏法破壊である。

⑥ 腐敗墮落

文証：大聖人は仏法利用の悪僧を「法師の皮を着たる畜生」「食法がき」と厳しく破折。

破折：日顕をはじめ日顕宗僧侶は豪遊などの腐敗墮落を極め、大聖人の教示に違背している。



創価学会は「魂の独立」を果たし、SGIの連帯は世界192ヶ国・地域に拡大。

日顕宗の信者数は全盛期の2%に激減。

→ 正邪は明らかである。

大聖人のご遺命たる広宣流布を実践し続ける創価学会に、日蓮仏法の本義が受け継がれている。

創価学会には、日顕宗の悪を打ち破り、世界広宣流布の大きな流れを開く使命がある。